

2022年度 事業報告書

特定非営利活動法人 アトピッ子地球の子ネットワーク

1 事業の成果

【食物アレルギー・貧困支援】

新型コロナ禍による世帯収入の減少、失職、ひとり親家庭などの困難な状況から、食物アレルギーのある子どもの中にも経済的な困窮に陥っている人がいます。食物アレルギー用食品は計画生産が徹底されているためかフードバンクにも出回ることがほとんどないようです。食物アレルギーの子どもが経済的に困窮してもフードバンクや子ども食堂を頼ることができない事例が出てきています。

2020年度から引き続き当年度も、食物アレルギーの子がいる貧困家庭、ひとり親などを主な対象として、アレルギー用粉ミルク、アレルギー用食品(食料)支援、子ども食堂へのアレルギー食材料提供と情報支援、フードパントリーへの食品供給などをテーマに活動しました。

複数の助成金を申請し採択されて何とか「支援」を実現してきましたが、これは少ないスタッフで実施する短期集中の作業を、事業採択されるたびに繰り返しているため、支援は実現しましたがスタッフは疲弊しました。新型コロナ禍が「収束」に向かっているとはいえ、ひとたび貧困に陥った人が、コロナ禍が去ったからといってすぐに普通の生活に戻れるわけでもありません。私たちの事業展開も、短期集中から中長期を視野に入れた支援の形を構築しなければならないと感じています。

【ケアリーバーのためのステップルーム】

患者支援だけを30年以上続けてきましたが、夏休み環境教育キャンプを26回以上継続開催した中で、ほとんどの開催時に「里子」や「ファミリーホーム」の子ども達を毎年3～5人無料招待してきました。被虐待児童、発達障害、外国ルーツなどいくつかの課題があって親元で生きることができなくなった子ども達と関わる中で、ファミリーホーム卒業後の子ども達がその後もたくさんの困難の中にあり、貧困であり続けることが気になっていました。新型コロナ禍でその状況が広がっていることを知り、2021年度から新たな事業として児童養護施設やファミリーホーム、里親(社会的養護)の卒業生となったケアリーバーを対象にした「ステップルーム」の運営を始めました。18歳～23歳をおよその対象年齢として、女性を対象に自立した生活の練習の場として住む場所を提供しています。これは私たちにとって全く新しい試みですが、今までの活動の必然の展開であったと思います。

2 事業の実施に関する事項

(事業費の総費用【16,284】千円)

(1) 特定非営利活動に係る事業							
定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(1) アトピー・アレルギー性疾患等に関する相談事業	・相談窓口開設(オンライン) アトピー・アレルギー性疾患のある患者の保護者や当事者などからの相談を受け、相談者に寄り添い暮らし方のアドバイスをした。「正しい答え」を伝えるのではなく、相談者が自身で判断するための伴走者として当法人の相談窓口はある。大規模災害で被災したアレルギー患者・災害弱者、育児放棄や虐待などで親と一緒に暮らすことができない子どもを受け入れる里親・ファミリーホーム、また、企業・団体・行政職員などからの相談も受け付けている。一部オイシックス・ラ・大地(株)及びパルシステム生協連合会協力事業	事前予約制、毎週金曜日開設(休日、8月休み)	法人事務所、テレワーク場所	4人	食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎などのアトピー・アレルギー性疾患、化学物質過敏症患者、生活困窮者及び一般市民、企業・団体、行政等	75人・団体	0
(2) 疾患発症の背景としての環境問題や患者のQOL(生活の質)向上等に関する調査、研究開発及び政策提言事業	・新型コロナ禍により生活困窮しているアレルギー患者家族への聞き取り調査 アレルギー用粉ミルクや食品を送付した患者家族を対象に、状況を把握し支援活動の実際に活用した。	4月～12月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族	104人	54
(3) キャンプや食農教育等を通じた環境教育事業	・夏休み環境教育キャンプと秋山プロジェクトなどの野外活動は新型コロナ禍のため休止した。						0
(4) 情報誌発行やウェブサイト運営、セミナー・イベント開催、講師派遣による情報提供・普及啓発事業、人材育成事業	・Webサイト「食物アレルギー危機管理情報(FAICM)」 アレルギー混入事故食品に関する自主回収情報を本サイトにアップ・集約し、サイトに登録した食物アレルギー患者などに案内メールが直接届くWebサイトを運用した。市民と企業による公共知の創造を目指しており、本サイトは食品回収事故のデータベースとして機能している。 *FAICM=Food Allergy Information for Crisis Management	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	5人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	不特定多数	6,229
	・ホームページの運用 活動内容の紹介等、広く情報提供を行った(オンラインクレジットカード、コンビニ等決済システム維持管理を含む)。同じくFacebookやTwitter等のSNSも運用した。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	7人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(4)情報誌発行やウェブサイト運営、セミナー・イベント開催、講師派遣・執筆等による情報提供・普及啓発事業、人材育成事業	・「アトピー・アレルギー応援カタログ2022」発行 アトピー性皮膚炎や食物アレルギー患者家族の暮らしを応援するために、アトピー性皮膚炎や食物アレルギーに対応した食品や生活用品などを製造・販売する企業の各商品やサービスを一つのカタログに集め、情報を必要としている患者家族に医療機関等から無料配布した。また患者の居る保育園・幼稚園・学校、福祉施設等にも無料配布した。ダウンロードも可能。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	8人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	10,000人	
	・エピペン携帯ケース(Help kit) エピペンを子ども自身が持参し自己防衛と危機管理をするための「エピペン携帯ケース」を制作、頒布した。 *エピペン:食物アレルギー緊急時治療用自己注射	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	15人	
	・アレルギー対応製品販売協力 アレルギー対応製品を選択せざるをえない患者が安心して商品選定ができるようアレルギーや商品に関わる動向についてリサーチを行った。オイシックス・ラ・大地(株)協力事業	4月～3月	法人事務所、山梨ブランチ	4人	協力先の会員、アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族	15,000人	
	・講師派遣 アトピー・アレルギー性疾患についての、患者実態、危機管理、災害救援。子どもや保護者が抱える課題。ケアリーダー支援等について、市民、企業・団体・行政・学校等に広く提供した。新型コロナウイルス禍によりオンラインでの開催も可能である。一部自主企画開催もあった。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ 依頼者が指定する会場	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	1,200人	
	・組織運営協力 アレルギー表示に取り組む組織の事務局運営に協力する。(一社)食物アレルギーフォーラム協力事業	4月～12月	法人事務所、山梨ブランチ	4人	協力先の会員企業(食品・流通等)	58団体・人	
	・Webサイト「東京子育て・食物アレルギーまっぴんぐ」 食物アレルギーのある子どもを養育する母親自身が都内の身近な場所で経験した「よいこと」を集め、事実確認と情報整理をしながら、広く活用できるデータベースを運用した。	4月～3月	法人事務所、山梨ブランチ	3人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(4) 情報誌発行やウェブサイト運営、セミナー・イベント開催、講師派遣・執筆等による情報提供・普及啓発事業、人材育成事業	・執筆書籍・発行冊子、依頼された冊子の普及 当法人が執筆した書籍や冊子等の印刷物を普及、頒布した。また、行政が作成し配布依頼のあった冊子も配布した。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	1,300人	
	・情報センター機能 市民・企業・団体・行政・マスコミ等への情報提供、研究協力等のため、各種情報誌や学会誌、書籍、集約したデータ等を閲覧、公開、提供した。新型コロナ禍のためメールやオンライン会議システムを利用しての提供となった。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	4人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体、行政等	17人・団体	
	・依頼原稿等の執筆 依頼原稿執筆等、広く情報提供を行った。	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所	4人	依頼者の運営するホームページ閲覧者等	不特定多数	
(5) 災害時におけるアレルギー患者・災害弱者支援プロジェクト アレルギー患者・災害弱者・災害弱者等の救援 減災推進事業並びに生活困窮者等支援事業	・アレルギー患者・災害弱者支援プロジェクト 新型コロナウイルス感染症等により、生活困難となった、赤ちゃんのいる家族、子育て中の家族、妊婦、シングルマザー(ひとり親)、外国籍などの人の暮らしを応援するために、アレルギー対応の粉ミルクやアレルギー対応の食品を無償提供した。食物アレルギーの子も一般の子も同じものを食べるユニバーサルな食事提供を試みる子ども食堂等にアレルギー用の食材料を無償提供した。 積水ハウスマッチングプログラムの会、しんぐるまざあず・ふぉーらむ、(公財)日本フィランソロピック財団子どもまんぷく基金助成事業、一部(公財)パブリックリソース財団	4月～3月	法人事務所、テレワーク場所、山梨ブランチ	10人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族、生活困窮者及び一般市民	527件(人)・団体 積水ハウスマッチングプログラムの会40件、しんぐるまざあず・ふぉーらむ167件、子どもまんぷく基金320件	5,632
	・災害・新型コロナ禍に備えるボランティア養成とネットワークの構築 2023年12月までの継続事業として下記内容の事業を実施するためにその準備を行った 生活困窮家庭へのアレルギー用粉ミルク・食料支援や災害時の物資支援を担うボランティアを養成。(1)アレルギー学習(2)ひとり親・子どもの貧困について学習(3)食糧支援・災害支援について報告(4)グループディスカッションを2回実施。近隣の大学、高校、行政等に案内告知。	1月～3月 2023年度 継続事業	テレワーク場所、山梨ブランチ	6人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民、企業・団体等	5,000人	

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
(5) 災害時におけるアレルギー患者の救援及び被災生活困窮者等支援事業	<p>災害時アレルギー患者支援ツール開発。ピクニックシート(1畳)に「食物アレルギーの症状」「アナフィラキシー救急の方法」「食品表示の見方」「食料支障が必要な時の連絡先」を印刷して各地の専門医・自治体(防災・子育て支援)へ無償配布する。希望者には頒布する(実費・送料程度)。</p> <p>災害時緊急連携のネットワーク構築。子ども食堂、団体、食品企業等、日常的に連絡を取っている所と、災害時の連絡方法、役割分担、等についてのオンライン会議を年2回程度開催する体制を作る。担当者が変わったとき次の人に必ず引き継ぎするルール作り、災害用新規商品についても情報交換する。</p> <p>大和証券グループ未来応援ボンド子ども支援団体サステナブル基金助成事業</p>						
	<p>・食物アレルギー、アトピー性皮膚炎災害弱者のための支援事業</p> <p>夏の豪雨災害について、被災地域の行政等に被害状況の調査を行った。中央共同募金会助成事業</p>	7月～9月	法人事務所	3人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民	0	
(6) ケアリーダー(社会的養護経験者)の支援、児童福祉法に基づいた児童生活自立援助事業	<p>・ケアリーダー(社会的養護経験者)の自立サポートプロジェクト</p> <p>児童養護施設や里親・ファミリーホームなどの社会的養護施設を巣立った、保護者と一緒に暮らすことができない18～22歳前後の女性達が安心して過ごすことができる居住スペース(ステップルーム)を提供し、少しずつその自立を支援するプロジェクト。居室(個室)を提供し、生活に必要な家電製品やWi-Fiなどの通信環境を整え、週数回の夕食と自分で1日3食の食事を作るための食材料を提供。炊事・洗濯・清掃の技術を学び、社会人として生きていくための生活の知恵を学ぶワークショップや多国籍料理教室等もオンラインで開催した。児童相談所経由での高校生一時預かり、女性相談所経由でのDV被害者の一時避難も受け入れた。</p> <p>NOBUKO基金助成事業、一部(公財)SOMPO福祉財団助成事業</p>	4月～3月	法人事務所、山梨ランチ	10人	ケアリーダー及び一般市民	利用4人 学習会52人	4,368